

「きものの借りは、きもので返す」

和装技能士
1級認定講座

第10期生
募集中

大好きなきもの(和装)を
お仕事にする喜びを!

50代以上の方が全国で大活躍!
いくつになってもできる仕事です。

2つのコースから
やりたいことを、
ご自分で選べます。

きものスタイリストコース

(主な習得内容) 着装、織と染め、全国の紬、寸法・仕立て、柄付け

着付け講師コース

(主な習得内容) 補正の仕方、長襦袢の着方、きものの着方、帯の結び方、教室運営のコツ

今期は京阪神、福岡エリアの限定募集になります。
両エリアの皆さま、ぜひこの機会をお見逃しなく!

この講座の特徴

- 1クラス2名~8名の少人数で行い、確実に技能が習得できます
- あくまでも「プロ」の技術者を養成する講座です(受講料・認定料が必要です)
- 専用テキスト等を使用して本格的な知識も学べます

認定後のお仕事は?

販売会やイベントでおなじみの加盟店各社とのお仕事です。今も、1期から9期で認定された方々が全国で活躍されています。

さっそく、
問い合わせ&申し込み
→和装家のみなさんへ特典あり!



ちょっとドキッとするタイトルでしたが、素敵なきものライフを送るには実際、お金がかかります。そこで大好きなきものに関する仕事ができたら、そこで収入を得ることができたら、と思ったことのある方は多いかもしれませんね。そんな想いをカタチにするのがこの講座です。



この講座で「和装技能士1級」を取得された岡山の第2期生のみなさん



ベトナムのスタッフは、日本に負けない真剣さで和裁に取り組んでいます。

来日し、日本和装の京都、糸の匠センターでの研修



ベトナムと日本で守り続ける、
日本の伝統技術。



現在、日本の着物の手縫い縫製の約9割がベトナムで行われていると言われています。ベトナムで縫製を行う職人にとって、日本の伝統である着物の着心地や着やすさを実際に体感する機会は限られていません。それにもかかわらず、私が所属する日本和装グループ(NIHONWASOU TRADING)の縫製は、日本の第三者機関による調査で、仕立ての美しさ、着心地、着やすさにおいて「満足度No.1」を獲得しています。この高評価は、長年にわたって培われてきた技術と、それを維持・向上するための指導・管理体制の成果にほかなりません。

この満足度の高さを支える背景には、主たる拠点を日本に持ち、独自に集約した縫製要領を基にした技術指導と、日本人ベテランスタッフによる粘り強い教育が大きく貢献しています。着物の仕立てでは、生地扱い方や手の使い方、針つ、アイロンに至るまでの道具の選び方、そして柄合わせの精度が極めて重要であり、これらが最終的な仕上がりに大きく影響を与えます。さらに、着物の生地は非常に繊細で、対応する縫製技術が求められます。唯一無二の作品に仕立てるためには、生地を作る日本の職人の魂が込められており、その思いが技術として受け継がれていくのです。現在では、ベトナムの職人もこの繊細な生地に

年々対応する縫製技術に習熟し、さらなる品質向上に貢献しています。産業としては年々衰退しつつある状況の中、ベトナムにある各縫製工場は、長年にわたって培ってきた工夫を生かしながら、日本の伝統的な技術を守り、次世代に伝承しています。具体的には、ベトナム現地に技術者を常駐させるほか、定期的に日本から技術者を派遣して短期集中の指導を行っています。また、ベトナム人スタッフが日本を訪れて現場を直接学ぶ機会も設けており、現地の職人が日本の伝統的な縫製技術をより深く理解し、技術を磨く環境が整っています。このように、ベトナムと日本が互いを深く理解し合い、協力することで、大きな成果を生み出し続けています。



金閣寺をバックに写真を撮りました。京都に滞在し、和装文化の興行きを感じてもらい、和裁への想いをもっと深めてもらえればと思います。

当NPOでは、日本の着物とベトナムのアオザイを互いに尊重し、それぞれの文化として敬意を払っています。ベトナムでは、日本文化に興味を抱き、その魅力を深く理解しようとする人々が増えつつあり、両国の文化交流はますます盛んになっています。当NPOは、日本の着物が長い歴史を持つとともに、維持が難しい高度な技術を含んでいることから、将来的に着物を世界遺産にするという大きなビジョンを掲げています。そして、アオザイもまたベトナムの素晴らしい伝統文化として、共に世界遺産を目指せるならば、両国の文化が未来にわたって受け継がれることとなり、非常に意義深いことだと考えています。特定非営利活動法人きものを世界遺産にするための全国会議ホーチミン事務所 藤井健太郎



お問い合わせ、お申し込みは
LINEかメールで受付しています。
office-iwamoto@wasou.com

